



「子供の尊い命を守り、無限の可能性を伸ばす」陣屋小学校

# 陣屋小だより

学校教育目標  
かしこく  
やさしく  
たくましく

令和5年8月29日  
第5号

## 凡事徹底し、活躍のチャンスを見つける

校長 保戸田雅之

最高気温が35度を超える「猛暑日」が何日も続き、一方で台風などによる大雨で被災される地域が多く出るなど、命の危険を感じる出来事が多くあった夏でした。



すくすく伸びる5年生のバケツ稲

さて、様々な学校行事を織り交ぜながら、学習やスポーツへの取組が最も充実する2学期、子供たち一人一人のがんばりに大いに期待するところです。始業式では、次の2つについて子供たちに話しました。

### 当たり前のことをきちんとやること

朝、友達に会ったら「おはよう」とあいさつをすること、助けてもらったり、優しくしてもらったりしたら「ありがとう」と伝えること、掃除は黙って、隅々まできれいにすることなど、やって当然のこと、できて当たり前のことは手を抜かない陣屋っ子でいてほしい。「あいさつ、返事、くつそろえ」を2学期も意識していこう。

### 活躍できる場所を見つけること

学習に限らず学校生活の中で、自分の得意なこと、自信のあることを自覚して、ここぞというときには一歩前に出る。失敗を恐れない。そして、誰かの役に立つことに喜びを感じる陣屋っ子でいてほしい。がんばったその先の「達成感」に喜びを見つけ出していこう。

「凡事徹底」（当たり前のことを、人には真似出来ないほど一生懸命にやること）という言葉があります。勤勉さが日本人の美德でもあります。まじめに頑張れる陣屋っ子が、もっともっと増えるといいなと思います。

一方で、積極性のある子に隠れて、自分らしさや自分のよさを生かすことを遠慮している子も少なからずいます。最近の子供たちの

傾向として、失敗に対して少し臆病などころがあります。「トライ・アンド・エラー（試行錯誤）」という言葉があるように、正解の確信が持てるものだけに手を出すのではなく、試しにやってみて、失敗したら考えて、もう一度試してみるという学び方をもっと経験させたいと思います。

失敗する前にやり方を教えすぎたり、考えさせずに指示に従わせたりという、「転ばぬ先の杖」的な発想から視点を変えていきたいです。マニュアル依存にならないように、子供たちの可能性を伸ばしていきたいと思えます。これは、学校だけでできることではありません。ぜひ、ご家庭での励まし、後押しの支援をお願いいたします。

### かけがえのない子供たちを守るために

コロナ禍の影響で友人と触れ合う経験が乏しかった子供たちが、悩みを抱えたり、それをうまく相談できなかつたりする傾向が高まっています。全国的にも、児童生徒の自殺が疑われる事案が複数発生しているそうです。特に長期休業明けには、そのような事案が増加する傾向にあり、新学期を迎え、不安感が強くなる子供たちが増えることも考えられます。

- ・これまでに関心のあった事柄に対して興味を失う
- ・成績が急に落ちる
- ・不安やイライラが増し、落ち着きがなくなる
- ・投げやりな態度が目立つ
- ・健康管理や自己管理がおろそかになる

私たち周囲の大人は、こうした子供の態度に現れる微妙なサインに注意を払い、不安や悩みを受け止め、かけがえのない子供たちを全力で守っていかねばなりません。学校でも、暑い中ご協力いただいた個人面談での内容を生かして、より一層アンテナを高く、ご家庭との情報共有を心掛けてまいります。